

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 国立大学法人 三重大学 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (国立大学)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 514 - 8507

三重県津市栗真町屋町 1577 国立大学法人 三重大学

E-mail park@human.mie-u.ac.jp

Website http://www.mie-u.ac.jp/

幼児児童生徒数 男子 名 女子 名 合計 7,250 名

幼児・児童・生徒の年齢 18 歳～ 30 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

三重大学は、三重県のユネスコスクール拠点大学として、県内のユネスコスクール加盟校・申請校のユネスコスクール活動の活性化のため、産官学民との連携による地域・国際活動を行なっている。平成 29 年度の三重大学のユネスコスクール支援活動及び、三重大学の ESD 活動に分けて報告する。

(1) 三重大学のユネスコスクール支援活動

① トヨタ自動車 (株) との連携による「AQUA SOCIAL FES !! in 松名瀬 2017」事業実施

2017 年 5 月 20 日 (土) と 10 月 28 日 (土) に、伊勢湾最大の干潟である松阪市松名瀬干潟において、三重大学とトヨタ自動車 (株) との連携による、ユネスコスクール加盟校の三重中・高校の教職員と学生、ユネスコスクール登録を目指している県内の小・中・高校の教職員と学生、三重県と松阪市の行政職員、県議会委員、企業 (中部電力 (株))、観光協会、漁業組合、森林組合、住民など、1,000 名を超える参加者による松名瀬干潟清掃と生物多様性学習を行った。三重県は南北約 170Km、海岸線の総延長約 1,000Km となる自然豊かな地域であることから、

自然と人間との調和の取れた持続可能な社会からなる地域創生のため、産官学民連携による、三重県初のラムサール条約登録に向けて継続的、発展的ユネスコスクール活動を行うこととなっている。

②中部電力（株）との連携による「夏休みエネルギー環境教育」事業実施

2017年8月9日（水）と10日（木）に、「四日市公害と環境未来館」において、三重大学と中部電力（株）との連携による「夏休みエネルギー環境教育」を実施し、ユネスコスクール加盟校の四日市高校生及びユネスコスクール登録を目指している幼稚園児と保護者や先生、小中高大学生の100名が参加した。川越火力発電所とテラ46の見学、電気の仕組み学習、人力自転車による発電体験などのエネルギー教育、浦島太郎の紙芝居から学ぶ生物多様性学習を行った。特に、小学生の夏休み自由研究のための壁新聞作成及び発表会を行なった。

③日本地理学会との連携による「日本地理学会2017秋季学術大会」事業実施

2017年9月29日（金）～10月1日（日）に、「日本地理学会2017秋季学術大会」を三重大学にて開催し、朴 恵淑教授が実行委員長を務めた。学会会員の研究発表だけでなく、高校生を対象とするポスターセッションを設け、県内のユネスコスクール登録校の四日市高校、セントヨゼフ女子学園高校、三重高校及び県内外の20高校におけるESDの成果報告を行った。

（2）三重大学のESD活動

①「四日市公害訴訟判決45周年公開シンポジウム」事業実施

2017年9月29日（金）～10月1日（日）に、「日本地理学会2017秋季学術大会」を三重大学にて開催した。特に、1972年の四日市公害訴訟判決から45周年となることから、朴 恵淑教授が実行委員長として「四日市公害訴訟判決45周年公開シンポジウム」を実施した。四日市公害の発生メカニズム、人間を含む生態系への影響、四日市公害克服のための環境政策、アジアの国際環境協力の有効なツールとなる「四日市学」をベースに、日中韓の研究者、行政、企業、四日市公害の語り部とのパネル討論を行なった。成果として、日中韓における「Blue Sky North-East Asian Network」を構築、運営することとなった。

②「24th Tri-University International Joint Seminar & Symposium」事業実施

2017年10月23日（月）～27日（金）に、三重大学で開催された「第24回3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム」において、朴 恵淑教授が環境部門の専門委員として関わり、日中韓極東ロシアタイインドネシアの10大学から156名の学生を対象に、「四日市公害から学ぶ「四日市学」と国連SDGsとユネスコESDとのリンク」に関するキーノート・スピーチを行なった。また、「四日市公害と環境未来館」との連携によって巡検を行い、四日市公害の語り部と共に四日市公害の過去・現在・未来について意見交換会を行った。本事業は、四日市公害から学ぶ「四日市学」をベースとした環境地理学的観点から、三重県だけでなく、アジア諸国の日中韓極東ロシアタイインドネシアの関係者と共にグローバル人材育成のための「SDGs-ESD国際ネットワーク」構築による国際的展開を行うこととなった。

③「三重大学ユネスコスクール研修会2017」事業実施

2018年3月17日（土）に、三重大学において「三重大学ユネスコスクール2017」を開催し、県内の21ユネスコスクールの活動報告及び交流を行った。加納 哲理事・副学長は、ユネスコスクールの量的拡大だけでなく、質的向上が必要であるのと同時に、今後、SDGs-ESDの発展的展開が必要不可欠であるとの見解を示し、産官学民の連携を図りながら積極的に進めることとなった。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<p>① 書籍</p> <ul style="list-style-type: none">・ 四日市学講義(2007.7.), 朴 恵淑編, 風媒社, 304 ページ.・ 四日市公害の過去・現在・未来を問う「四日市学」の挑戦(2012.7.), 朴 恵淑編, 風媒社, 272 ページ.・ 三重学(2017.3.30), 朴 恵淑編著, 風媒社, 359 ページ. <p>② ウェブサイト (ACCU ユネスコスクール)</p> <p>③ パンフレットなど</p> <ul style="list-style-type: none">・ 三重大学環境報告書 2017・ 三重 ESD コソーシアム 三重大学ユネスコスクール研修会 2017 報告書

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- (1) 教養教育における SDGs-ESD 教育
5 学部（人文学部、教育学部、医学部、生物資源学部、工学部）共通の教育カリキュラムの構築・実施
環境教育、エネルギー教育、防災教育、気候変動（地球温暖化防止）教育、生物多様性教育、国際理解教育、文化財・文化継承教育、男女共同参画教育、国内外の環境インターンシップなどを行っている（半期 1 科目 2 単位）。
- (2) 専門教育における SDGs-ESD 教育
5 学部（人文学部、教育学部、医学部、生物資源学部、工学部）独自の教育カリキュラムを実施している。
- (3) 大学院における SDGs-ESD 教育
6 研究科（人文社会、教育、医学、生物資源学、工学、地域イノベーション学）の修士課程・博士課程における独自の教育カリキュラムを実施している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- (1) 教員組織と活動
全学組織として、教員による「三重大学ユネスコ委員会」を組織し、運営している（委員長；環境担当理事・副学長；加納 哲）。
- (2) 学生組織と活動
全学部及び大学院生による学生委員会を組織し、活動している（環境 ISO 学生委員会、男女共同学生委員会、ESD クラブ、中国人留学生学友会など）。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- (1) 内部評価
毎年、三重大学の環境マネジメントシステムの ISO14001 に伴う内部監査による内部評価を行っている（PDCA サイクル）。
- (2) 外部評価
- ・ 三重大学の環境マネジメントシステムの ISO14001 の更新時に外部評価を行っている。
 - ・ 毎年、「三重大学ユネスコスクール研修会」において、外部関係者（教員、企業、行政）による意見交換会において外部評価を行なっている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

(1) 文部科学省持続可能な開発のための教育(ESD)推進事業「三重 ESD コンソーシアム」(平成 26 年度～28 年度)採択による活動成果・発信

- ・ 2014 年 11 月の「ユネスコ ESD 世界会議」のパートナーシップ事業「ESD in 三重 2014」による、世界 13 カ国 150 名の参加者による国際 ESD 会議の実施、「アジア ESD 国際ネットワーク」の構築・運営(事務局;三重大学地域 ECO システム研究センター)。
- ・ 2016 年 4 月、5 月の「伊勢志摩サミット」「桑名ジュニアサミット」のパートナーシップ事業「ジュニアサミット in 桑名」及び「ポストサミット in 三重 2016」による、世界 19 カ国 210 名の参加者による国際 ESD ユース会議の実施、「ESD Youth International Network」の構築・運営(事務局;三重大学地域 ECO システム研究センター)。

(2) 三重大学国際環境教育研究センターの科学的地域環境人材育成事業(SciLets)による活動成果・発信

- ・ 2018 年に、「SDGs-ESD 国際ネットワーク」への発展的展開に向けた DVD 資料作成に向けた準備。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

(1) 「三重 ESD コンソーシアム」による協働、交流、ネットワーク

- ・ 文部科学省持続可能な開発のための教育(ESD)推進事業「三重 ESD コンソーシアム」(平成 26 年度～28 年度)採択による県内外及びアジアのユネスコスクールとの活動成果・発信

(2) 「産官学民」との連携による協働、交流、ネットワーク

- ・ トヨタ自動車(株)、三重県、松阪市、観光協会、漁業組合、森林組合、住民との連携による「AQUA SOCIAL FES!! in 松名瀬 2017」活動の継続的、発展的展開(三重県初のラムラール条約登録を目指す)。
- ・ 中部電力(株)、四日市公害と環境未来館との連携による「夏休みエネルギー環境教育」活動の継続的、発展的展開。

(3) 「中部地方 ESD 活動支援センター」との連携による協働、交流

- ・ 三重大学ユネスコスクール研修会へ出席、評価の協力。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ・ 2014年11月に「アジアESD国際ネットワーク」の構築・運営（事務局；三重大学地域ECOシステム研究センター）。
- ・ 2016年4月に「ESD Youth International Network」の構築・運営（事務局；三重大学地域ECOシステム研究センター）。
- ・ 2018年に、「SDGs-ESD国際ネットワーク」への発展的展開に向けた準備。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項2-5に対応

- (1) 三重県の特徴を活かした多様なユネスコスクール活動内容の確立
- ・ 三重県は南北約170km、海岸線の総延長は約1,000kmである多様な自然環境及び文化的特徴を活かした、多様なユネスコスクール活動内容の確立。（例えば、四日市高校のSGH活動として国際理解教育、セントヨゼフ女子学園中高のワーカーソン募金活動によるアフリカの支援活動、三重中高の三重県初のラムサール条約登録に向けた生物多様性活動）。
- (2) 産官学民の連携によるユネスコスクール活動の継続的・発展的展開
- ・ トヨタ自動車（株）との連携による伊勢湾最大の干潟の松名瀬干潟での三重県初のラムサール条約登録に向けた生物多様性活動。
 - ・ 中部電力（株）との夏休みエネルギー環境教育の継続的、発展的展開。
- (3) 国内外のネットワークの構築、運営
- ・ これまでの国内外のESDネットワークについて、2018年の「SDGs-ESD国際ネットワーク」へ発展的展開。
- (4) 産官学民との連携による活動基金の確保
- ・ 産官学民の連携によって、企業の社会的責任（CSR）とユネスコスクール活動の継続的・発展的展開が期待できるWin-Win的關係の確立。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- (1) ユネスコスクール支援活動の強化
- ・ 県内のユネスコスクール登録校（21校）及び登録を目指している6校への継続的、発展的支援を行う。
 - ・ 産官学民との連携による多様なユネスコスクール活動の継続的、発展的展開を行う。
- (2) 三重大学のESD活動の強化
- ・ 教員及び学生組織の継続的、発展的展開を行う。
 - ・ 教養教育、専門教育、大学院教育におけるカリキュラムの学問横断的（水平的）、垂直的関連性を深める。
- (3) 国際ネットワークの強化
- ・ 科学的地域環境人材育成事業（SciLets）との連携による「SDGs-ESD国際ネットワーク」の構築、運営を行う。
- (4) 産官学民との連携による活動基金の確保
- ・ 企業の社会的責任（CSR）に繋げ、ユネスコスクール活動支援を行う。